

南日本新聞

2023(令和5)年

8月11日

金曜日

遺伝子治療認定医 学会が61人初公表

鹿県は小賤鹿大教授

日本遺伝子細胞治療学会は10日、遺伝子治療に関連する制度や技術などに精通した医師61人を「認定医」とし、学会のウェブサイトで初めて公表した。認定医のもとで患者が適切な治療を受けられるようにするのが狙い。

一部のクリニックで研究段階の未承認薬を使った治療が行われており、安全性への懸念が高まっていた。学会の認定制度委員長の米満吉和・九州大教授は「遺伝子治療を安心、安全に受

けてもらうための第一歩。治療の普及にも役立てたい」と話した。

公表された61人は、21都道府県と米国の大学や医療機関に所属。学会が開く講習の受講や、臨床研究、治療に携わった経験などを認定の条件とした。認定医資格は3年間有効。

鹿児島県では、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科遺伝子治療・再生医学分野の小賤健一郎教授が認定医となった。小賤教授は「遺伝子治療は革新的治療となる大きなポテンシャルがある。若い医師や研究者らに関心を持ってもらえたらうれしい」と話した。